参考資料2

平成 28 年度　双葉町復興町民委員会
第３回 町の復興部会　報告書（1022）

■日時　　平成 28 年 10 月 12 日（水）13 時 00 分から 16 時 00 分
■場所　　双葉町役場いわき事務所　2 階大会議室
■参加者　　別紙座席表のとおり
■テーマ　　「帰還困難区域に関する政府方針を踏まえた今後の取組」
・全グループ共通「帰還に向けた課題・帰還の条件」
・グループＡ「両竹・浜野地区に関する考え方」
・グループＢ「復興拠点での事業再開」
・グループＣ「復興拠点外の整備」
・全グループ共通「自由テーマ」「感想」

■「帰還困難区域の取扱いに関する考え方」（資料４－１）、「帰還困難区域に関する政府方針」（資料４－２）、及び「帰還に向けた双葉町の取組方針について（素案）」（資料５）に対する意見交換

・「概ね５年」とはいつを想定しているのか。
⇒認定を受けてから５年である。認定の時期は決まっていない。来年度からと想定される。（事務局）

・両竹・浜野の住民に対して、駅西に建設予定の公営住宅へ優先入居対応を行うのか。
⇒両竹・浜野地区や中間貯蔵施設のような、帰還したくても住宅がない住民は、優先的に駅西の公営住宅への入居ができるように取り扱っていきたい。（事務局）

■ワークショップの発表会

A グループ：相樂比呂紀、小川貴永、菅本洋、斉藤六郎、白岩寿夫

①帰還に向けた課題・条件

【発表の要点】
- 放射線のことが不安である。
- 東京電力の対応として、廃炉・線量等の正確な情報公開をしてほしい。
- 病院等の有無が重要であり、厚生病院には再開してほしい。
- 仕事については、商業支援・事業再生の補助金が重要である。手続きの簡素化も必要である。
- 火葬場を再開してほしい。

【模造紙】
《放射線》
- 帰還したのち線量が上がるかも。
- 東京電力の情報や対応を信用できない。
- 0.28 マイクロシーベルト／h を目指してほしい。
- 廃炉の完了。
- 情報公開をきちんとする。
- 線量の公開を正しくする。

《医療》

- 診療所の有無が心配。厚生病院の再開を。

《仕事》

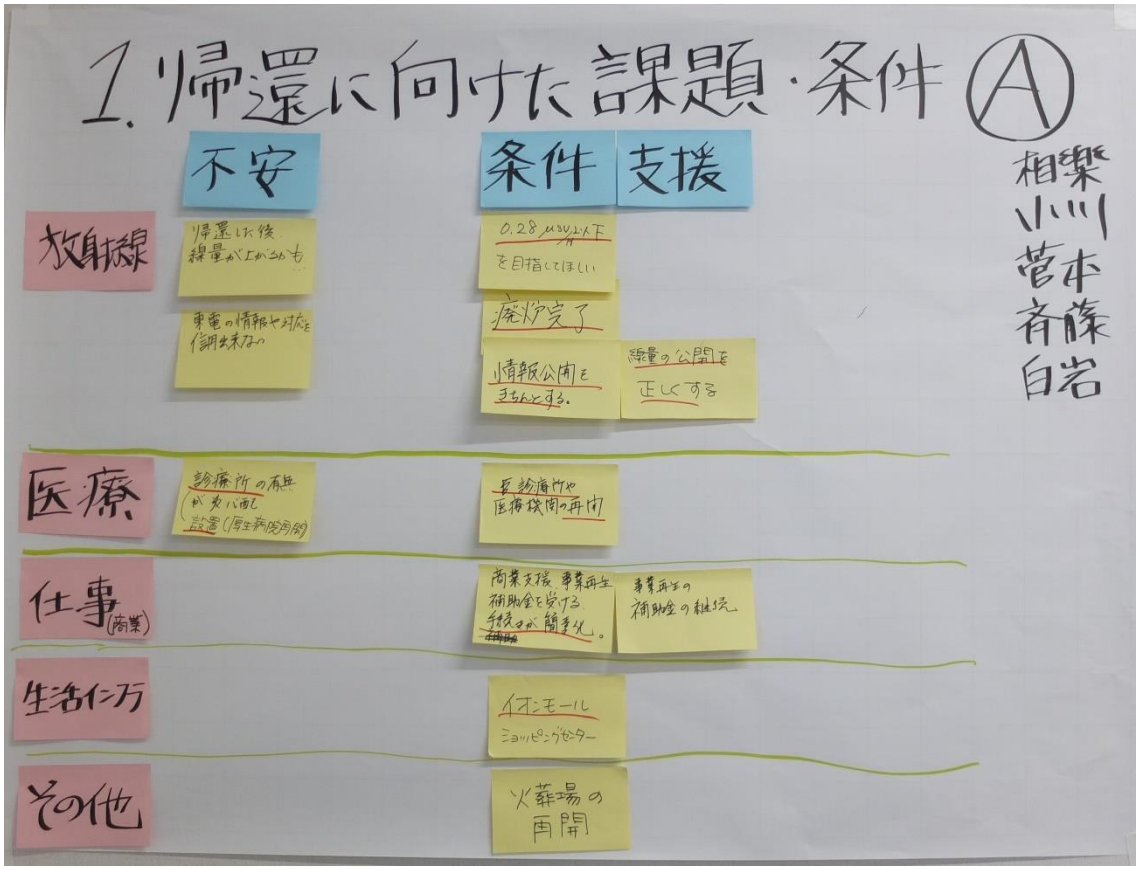
- 商業支援、事業再生で補助金を受ける手続きを簡素化。
- 事業再生の補助金の継続。

《生活インフラ》

- イオンモール。ショッピングセンター。

《その他》

- 火葬場の再開。



②両竹・浜野地区について

【発表の要点】

- 現状では住むことができない。現在４９戸あるが、別のエリア（駅西等）に住むことになる。住みたくても、防波堤の拡張・防災面などで住むことができない。
- 地区のきずなが崩れていることが心配だ。
- 駅西の開発と一緒でないと、浜野地区は帰還できない。インフラが揃わないと帰還は難しい。
- 役所がまず最初に帰還し、生活インフラ関係が整っていることが前提だ。上下水道が完全復旧しないといけない。
- 企業誘致ができるのか。新産業へのサポートをきちんとしてほしい。
- 解除しなくても、新産業誘致・公園設立などは進めてほしい。
- 解除されたら、賠償に影響がでるのではないかと不安がある。
- 避難指示解除準備区域に関する取扱いについては、町と両竹・浜野地区での約束がある。

【模造紙】

《もはや住めない、住みたくない》

- 浜野地区の 49 戸は住めないので、別の地区へ（住むことになる）。
- 住めない、住みたくない。先行解除されても意味がない。
- 地区の絆が壊れてしまっているので心配。

《駅西へ住みたい》

- 両竹・浜野単体ではなく、駅西・周辺と一緒でないと帰還できない。
- 駅西の避難指定解除に合わせて、同時に両竹・浜野地区も解除すべき。
- 皆がいない両竹・浜野に戻るよりは、皆がいる駅西へ。

《帰還の条件》

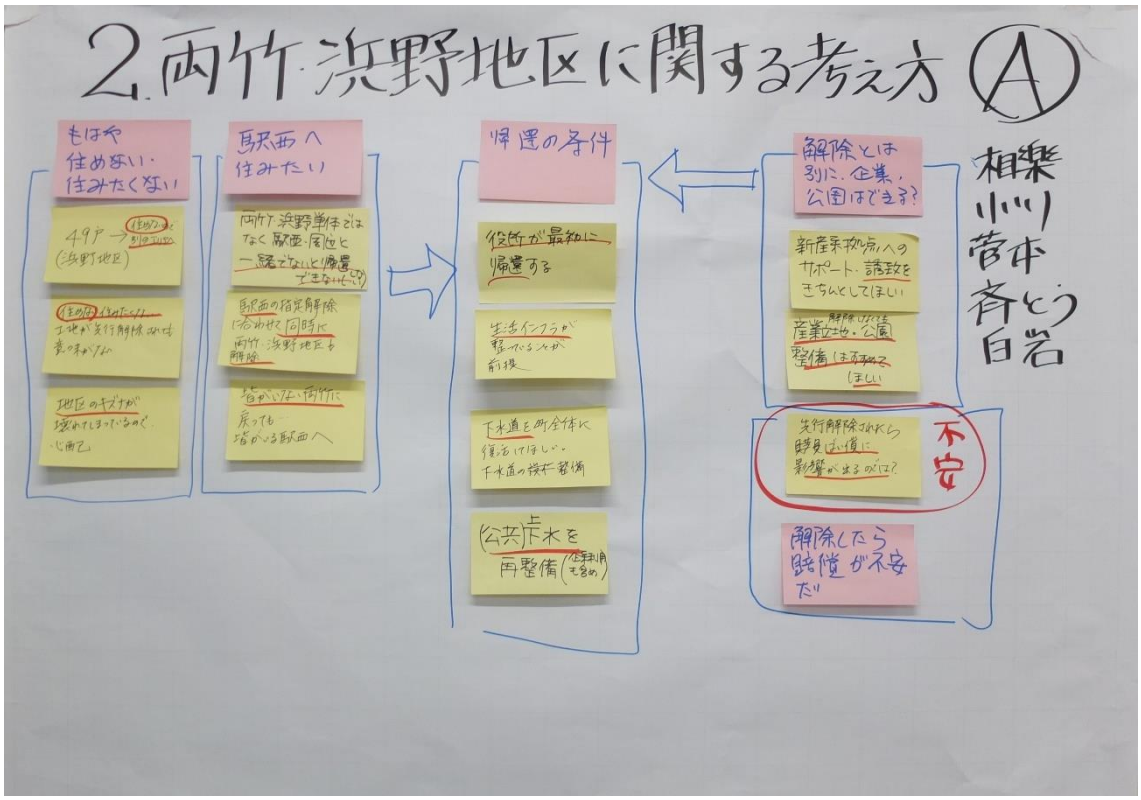
- 役所が最初に帰還する。
- 生活インフラが整っていることが前提。
- 下水道を町全体に復活してほしい。
- （企業利用を含め）公共上下水道を再整備。

《解除とは別に企業、公園はできる？》

- 新産業拠点へのサポート・誘致をきちんとしてほしい。
- 解除しなくても産業立地、公園の整備を進めてほしい。

《解除したら賠償が不安》

- 先行解除されたら賠償に影響が出るのではないか。


2.両竹・浜野地区に関する考え方 Ⓐ
もはや住めない・住みたくない
49戸 → 住めない と 別の コトバ
(浜野地区)
住めない 住みたくない
土地が先行解除 かいも 兼の味がない
地区のキズナが 壊れてしまっているので 「心配」
駅西へ住みたい
両竹・浜野単体ではなく 駅西・周辺と 一緒でないと帰還できないと思う
駅西の指定解除 に合わせて 同時に 両竹・浜野地区も 解除
皆がいない両竹に 戻っても 皆がいる駅西へ
帰還の条件
役所が最初に帰還する
生活インフラが整っていることが前提
下水道を町全体に 繋ぎたいほしい。 下水道の接続整備
公共下水を 再整備 (先手利用 を含め)
解除とは 別に、企業、 公園はできる?
新産業拠点へのサポート・誘致を きちんとしてほしい
産業立地・公園 整備 ほしい
先行解除されたら 時間は、 慎重に 影響が出るのは?
不安
解除したら 賠償が不安 だ
相馬 小川 菅本 斉藤 白岩

③自由テーマ

【発表の要点】
- 事業再開については、補助金の手続きの簡素化を行う必要がある。帰還困難区域であっても、飲食・診療・小売りなどはできるように規制緩和してほしい。
- 働く場を確保する必要がある。
- 農業再開については、個人では資金的に難しいので、国や県の手厚い支援や、ハード面・税制でも優遇してほしい。
- IT 技術を取り入れた農業を民間企業がやってほしい。
- 若い人にとって、パチンコ・飲み屋などの娯楽施設は必要ではないか。
- 中野地区の復興産業拠点への企業誘致を進めてほしい。

【模造紙】

《仕事》
- 補助金手続きの簡素化。
- 帰還困難区域でも小売業・飲食業・診療所が再開できるように。
- 働く場所を確保する。
- 農業再開について個人で取り組むのが難しいので国・県で検討してほしい。
- 事業再開に向けてハード面・税優遇などで手厚いサポートが必要。
- 農業面に民間の IT 技術を取り入れる。

《交流》
- 憩いの場をつくる。

《娯楽》
- パチンコ・飲み屋・映画館など娯楽が必要なので、同時か先に作る。

《その他》
- 中野の産業拠点に企業誘致。

④感想

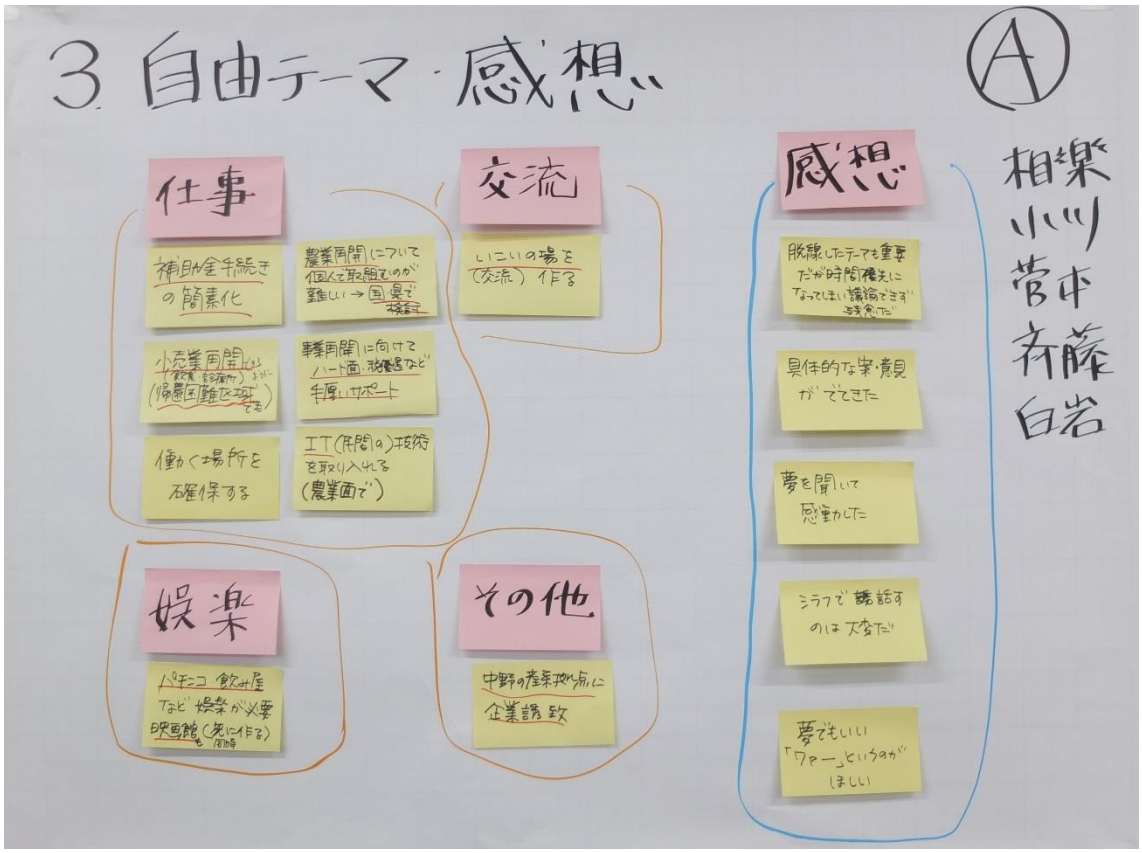
【発表の要点】
- 与えられたテーマ以外の話題も重要であり、もっと議論を行いたかったが、時間が限られていたため難しかった。
- 具体的な案や意見が出てきてとてもよかった。
- 夢を聞けてよかった。
- 夢でもよいのでもっと威勢の良い意見が欲しかった。

【模造紙】
- 脱線したテーマも重要だったが時間優先になってしまい議論できず残念だ。
- 具体的な案・意見が出てきた。
- 夢を聞いて感動した。
- シラフで話すのは大変だ。

- 夢でもいい「ワァー」というのがほしい。

⑤その他

- 両竹・浜野地区は双葉町全体の４％に過ぎないが、双葉町の復興の拠点として開発が進んでいくにあたり、果たしてどのような形になるのだろうか。復興産業拠点への企業誘致にしても、なかなか条件が難しいだろうと思う。津波リスクがある地域であり、中間貯蔵施設がある地域である。企業が来てくれるのか、心配もある。早く復興産業拠点に何らかの企業が来て復興の「のろし」をあげてほしい。帰還に向けた取り組みに関して、国はどのように考えているのだろうか。当時の町と両竹・浜野地区との話合では、双葉町は一つであり、帰還時期も全地区一緒がよいということになった。
- 帰還のための一番の条件は病院だ。病院が遠いと困る。ドクターヘリの導入が必要だ。ドクターヘリを飛ばすには、電柱が障害物になる。電線の地中化が必要だ。



Ｂグループ：伊藤哲雄、高野利彦、坂本新一、田中清一郎、横山久勝

①帰還に向けた課題・条件

【発表の要点】

- 放射線は除染が第一である。中通り同様、年間１ミリシーベルト以下である必要がある。０．２３マイクロシーベルト／h をクリアすることが大事だ。
- インフラ整備については、上下水道整備が必要だ。
- 下水道については、現在の処理方法ではなく、新たな浄化センターが必要だ。
- インターチェンジから通じる道路のほかに、現在は工事が中断されている国道６号の４車線化が双葉町の復興に繋がる。
- 居住については、「住む場所」を創っていくことが重要である。
- 防犯・防災に関しては、警察・消防署の優先的な設置が必要だ。
- 仕事については、公共事業の町内事業所への優先発注が重要だ。安定した雇用につながる。
- 素早い情報の提供と詳細にわたる情報の発表が大事である。ホットスポット・廃炉の情報をリアルタイムで町民へ届ける必要がある。
- 学校が再開できれば最も良いが、時間がかかると思うので、丁寧に進めてほしい。
- 補助金・医療の無料化・高速道路の無料化を継続してほしい。

- 役場・病院・ホテル等の施設を建設してほしい。
- 福島県の魚が食べられる施設を作ってほしい。

【模造紙】
《放射線》
- 低減（目標数値はどの程度か？）。世間一般で言われる数値を目安にする。
- 中通りと同様、年間 1㎜ 以下＝０．２３マイクロシーベルト／h。
- 除染が第一。

《インフラ》
- 上下水道、電気、プロパン。
- 6 号線の 4 車線化。
- 浄化センター。
- 下水処理センター計画の進捗を知らせてほしい。
- ガソリンスタンド。

《居住》
- スーパーマーケット。
- 住宅・アパート。

《防災・防犯》
- 防災センター、防犯ボランティア。
- 警察署。
- 消防署（分庁舎）。
- 双葉で作られる農産物が食べられるようになる。
- 福島県産の魚が食べられるようになる。

《仕事》
- 安定した雇用（働く場所）。
- 復興拠点に関わる公共事業。

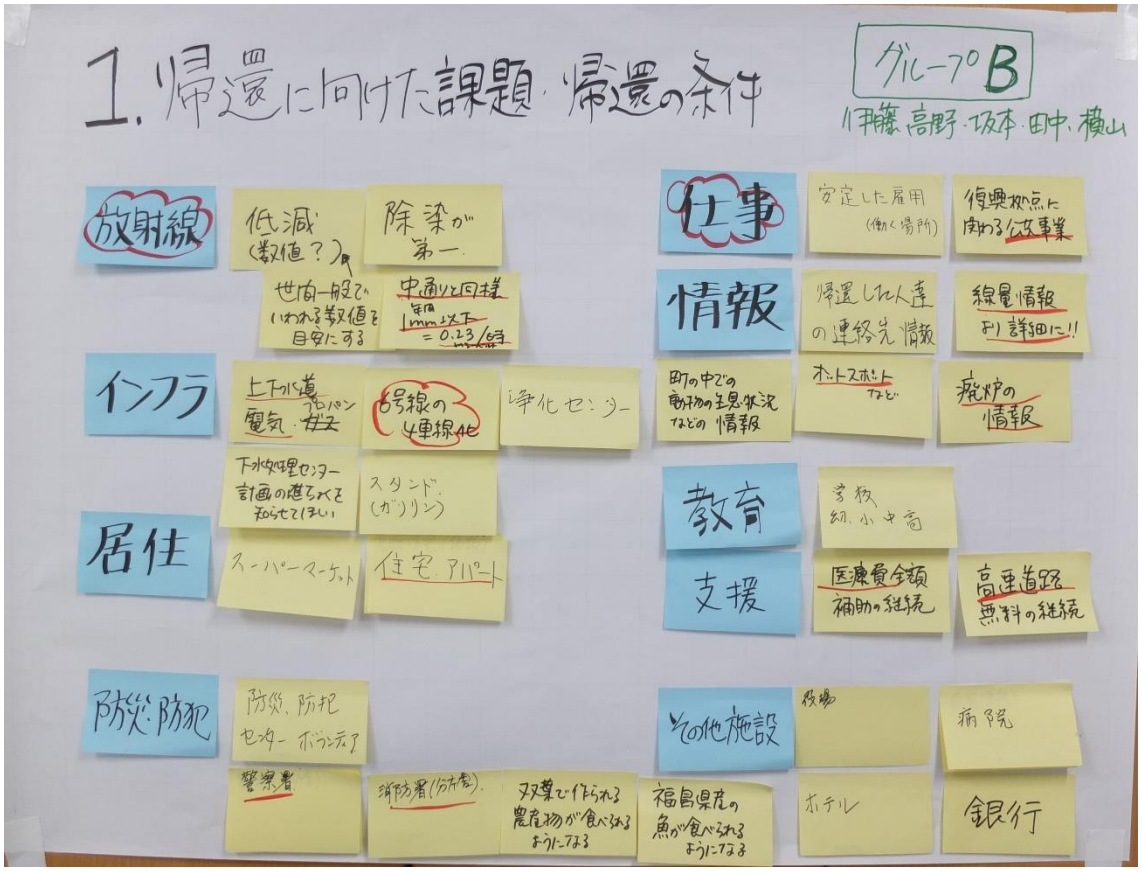
《情報》
- 帰還した人たちの連絡先情報。
- 線量情報をより詳細に。
- ホットスポットなど。
- 廃炉の情報。
- 町の中での動物の生息状況などの情報。

《教育》
- 学校（幼小中高）。

《支援》
- 医療費全額補助の継続。
- 高速道路無料の継続。

《その他の施設》
- 役場。
- 病院。

- ホテル。
- 銀行。


1. 帰還に向けた課題・帰還の条件
グループB
伊藤・高野・坂本・田中・横山
放射線
低減（数値？）
除染が第一
世間一般でいわれる数値を目安にする
中通りと同様
年間1mSv以下
= 0.23/6時
インフラ
上下水道
電気・ガス
パン
6号線の4車線化
浄化センター
下水処理センター計画の進ちょくを知らせてほしい
スタンド（ガソリン）
居住
スーパーマーケット
住宅・アパート
防災・防犯
防災・防犯センター ボランティア
警察署
消防署（分所含）
双葉で作られる農産物が食べられるようになる
福島県産の魚が食べられるようになる
仕事
安定した雇用（働く場所）
復興拠点に関わる公共事業
情報
帰還した人達の連絡先情報
線量情報より詳細に!!
町の中での動物の生息状況などの情報
ホットスポットなど
焼炉の情報
教育
学校 幼・小・中・高
支援
医療費全額補助の継続
高速道路無料の継続
その他施設
役場
病院
ホテル
銀行

②復興拠点の事業再開

【発表の要点】
- 復興拠点での事業再開といっても限られた場所しかないので、事務所の建設が必要だ。国や町に全面的にお願いしたい。
- 宿舎・下宿・宿泊施設の許可を国へお願いしたい。
- 従業員の確保が難しいので、支援してほしい。
- 補助金の情報・補助金の継続が必要である。
- コンビニ・食堂・ガソリンスタンドが必要である。

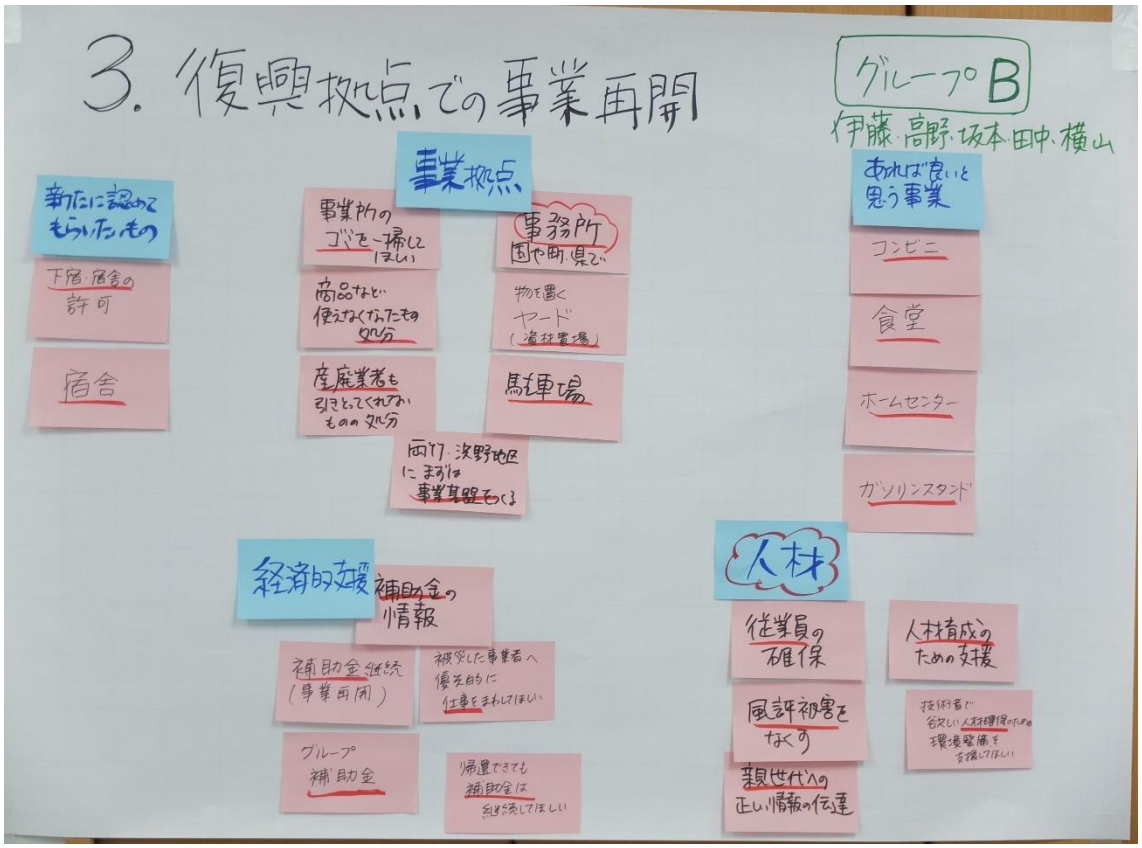
【模造紙】
《新たに認めてもらいたいもの》
- 下宿・宿舎の許可。
- 宿舎。

《事業拠点》
- 事業所のごみを一掃してほしい。
- 商品等使えなくなったものを処分してほしい。
- 産廃業者も引き取ってくれない物の処分。
- 事務所を国や県、町で。
- 物を置くヤード（資材置き場）。
- 駐車場。
- 両竹・浜野地区にまずは事業基盤をつくる。

《あればよいと思う事業》
- コンビニ。
- 食堂。
- ホームセンター。
- ガソリンスタンド。

《経済的支援》
- 補助金の情報。
- 補助金の継続（事業再開）。
- グループ補助金。
- 被災した事業者へ優先的に仕事を回してほしい。
- 帰還できても補助金は継続してほしい。

《人材》
- 従業員の確保。
- 風評被害をなくす。
- 人材育成のための支援。
- 親世代へのただしい情報の伝達。
- 技術者など欲しい人材を確保するため、環境整備を支援してほしい。


3. 復興拠点での事業再開
グループB
伊藤・高野・坂本・田中・横山
新たに認めてもらいたいもの
下宿 宿舎の許可
宿舎
事業拠点
事業所のゴミを一掃してほしい
商品など使えなくなったものの処分
産廃業者も引きとってくれないものの処分
事務所
国や町・県で
物を置くヤード（資材置場）
駐車場
両竹・浪野地区にまずは事業拠点をつくる
あれば良いと思う事業
コンビニ
食堂
ホームセンター
ガソリンスタンド
経済的支援
補助金の情報
補助金継続（事業再開）
被災した事業者へ優先的に仕事をまわしてほしい
グループ補助金
帰還できても補助金は継続してほしい
人材
従業員の確保
人材育成のための支援
風評被害をなくす
技術者が欲しい人材確保のための環境整備を支援してほしい
親世代への正しい情報の伝達

③自由テーマ

【発表の要点】

- 都市整備は町役場職員でも可能なところは進めていってほしい。
- 帰還時期がはっきり決まっていないので、事業者から町への要望をまとめるのも難しい。
- ５年という復興帰還については、いつから起算するのか。
- 事業所再開については、事務所の中がめちゃくちゃになっており、商品も積み重なっている状態である。建物の外にある商品は除染の際に処分することが決まっているようであるが、建物の中にある商品の処分をどうするのか決まっていない。今のうちに、どうのように対応するのか決めてほしい。

【模造紙】

《町への要望》

- 何で国が考えてくれないのかという思いの人もいる。
- 重要なテーマに関しては誰かまとめる人がいないと難しい。
- 大手の会社に頼まなくても町の職員で事業を進められるのが理想である。
- 町へ要望したくても帰還時期が決まらないと事業者がまとまれない。
- スタート時期は決めたほうがよい。
- 事業所のごみをどう処分するのか、今のうちに決める。

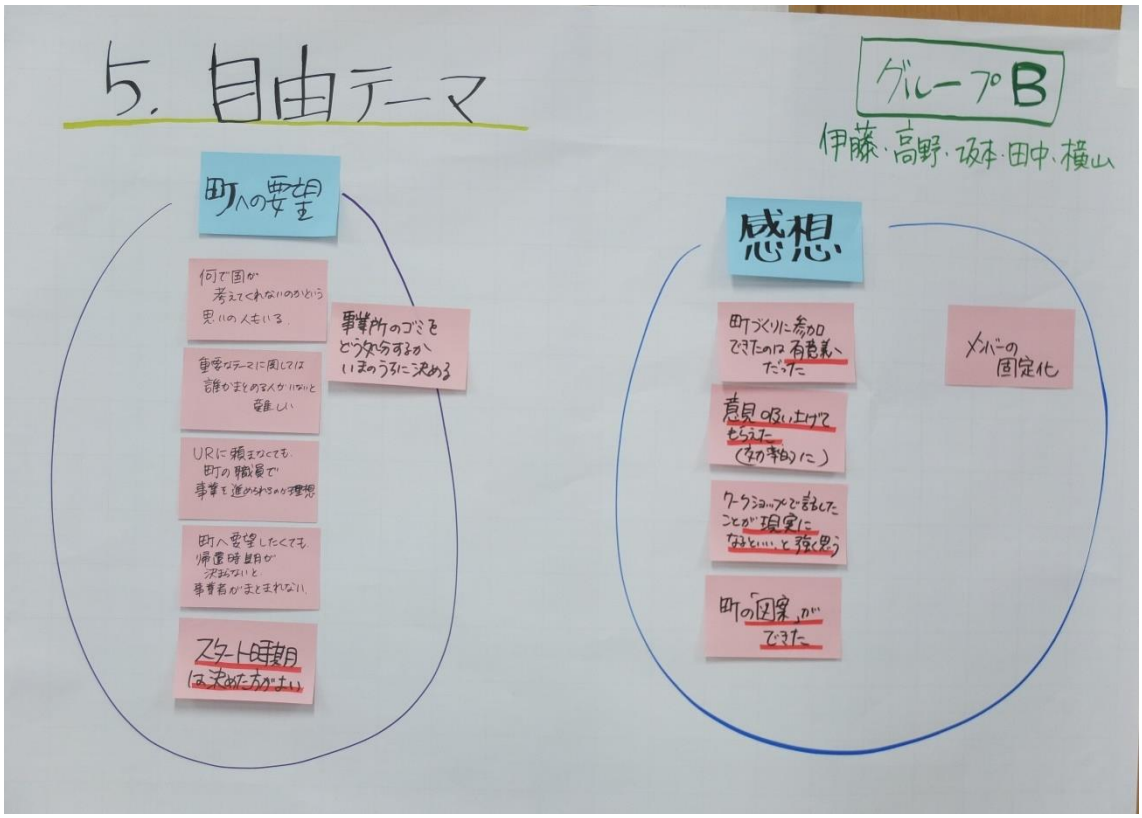
④感想

【発表の要点】

- まちづくりに参加できて有意義だった。
- 意見を効率的に吸い上げて貰えた。
- ワークショップで話したことが現実になるとよい。
- 商工業者の立場で話をすると、現状３６％しか事業再開できていない。飲食業者については、まだまだ大変な状況だが、復興が始まると、商工業者が活性化する。復興を早く進めてほしい。商工業者はたくましい。場所さえ提供してくれれば再開できる。

【模造紙】

- 町づくりに参加できたのは有意義だった。
- 意見を効率的に吸い上げてもらった。
- ワークショップで話したことが現実になるといいと強く思う。
- 町の図案ができた。
- メンバーの固定化。


5. 自由テーマ
グループB
伊藤・高野・坂本・田中・横山
町への要望
何で国が考えてくれないのかという思いの人もいる。
事業所のゴミをどう処分するかいまのうちに決める
重要なテーマに関しては誰かまとめるメンバーいないと難しい
URに頼まないでも町の職員で事業を進めるやり方が理想
町へ要望したくても帰還時期が決まらないと事業者がまとまれない。
スタート時期は決めた方がよい
感想
町づくりに参加できたのは有意義だった
メンバーの固定化
意見の吸い上げてもらえた（女の学校）に
ワークショップで話してたことが現実になればいいと強く思う
町の「図案」ができた

C グループ：木幡敏郎、藤田博司、真柄正洋、原中良博

①帰還に向けた課題・条件

【発表の要点】

- 人が集まる環境づくりが必要である。不安を解消し、生活が便利なことが必要である。
- 線量情報･放射線の影響が心配だ。帰還するには安心した町が必要である。廃炉がどう進むのか。
- 中間貯蔵は、国は心配ないというが、実際住む人にとっては、心配である。しっかりと情報提供してほしい。中間貯蔵の賠償はいつ完了するのか。いつから進むのか。進捗状況が心配である。
- 線量も心配だが、生活インフラがどうなるのか。水・道路・介護・病院もどうなるのか。
- 住むということになれば交流が大切である。交流を円滑にすることが必要で、ひとりぼっちにさせない、さみしい思いをさせないための交流機会を作ってほしい。ボランティアも必要である。
- 人が集まるためには、外部から人を呼び込むことが必要である。関心のある人に仕事や空き家を提供し、一緒に暮らすことでさらに人が集まる。
- 獣害も少なくする。
- 教育については、小中一貫高校・不登校の子どもの受け入れ場所・体験交流なども考えられる。

【模造紙】
《施設》
- 人が集まる環境作りが必要。
- 運動レジャー施設。
- 宿泊施設。
- せんだん温泉の再利用。
- 公園。

《線量情報》
- 線量が一番心配。
- 用地買収がいつ完了するか。いつから建設するか。

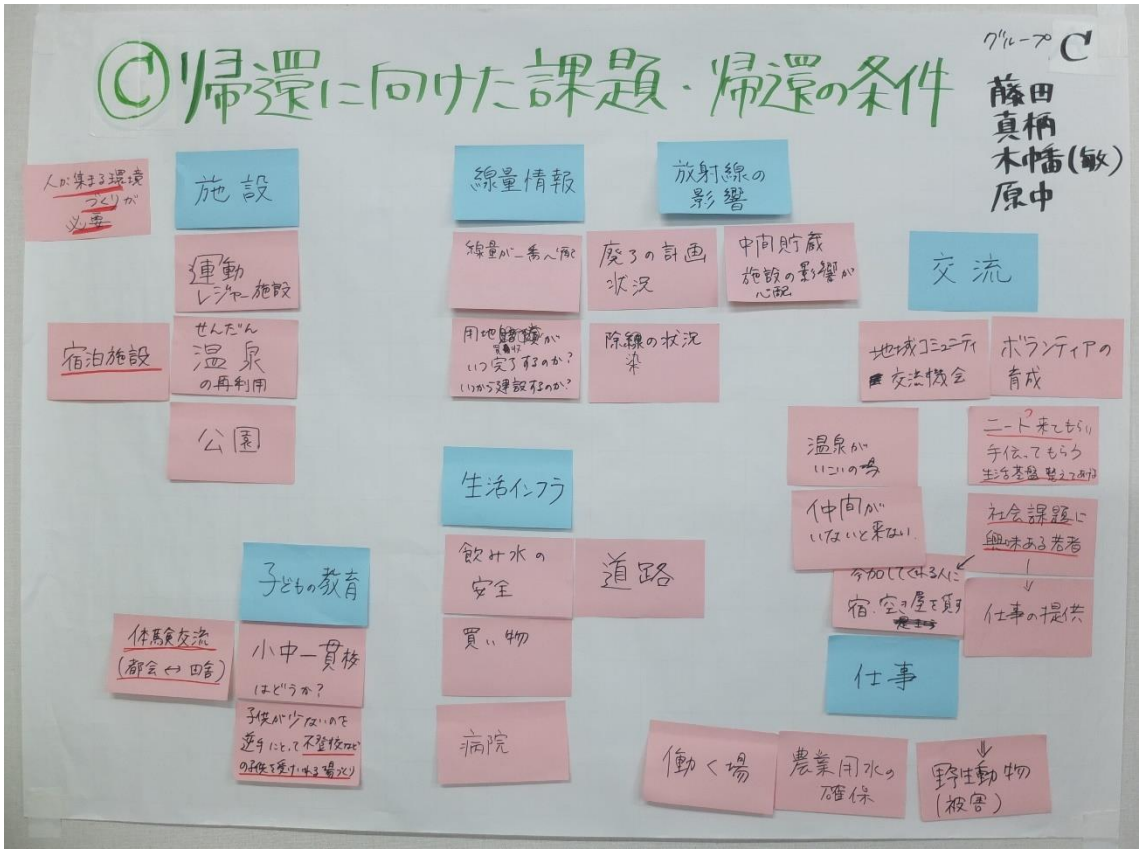
《放射線の影響》
- 廃炉の計画状況。
- 除染の状況。
- 中間貯蔵施設の影響が心配。

《交流》
- 地域コミュニティ交流機会。
- ボランティアの育成。
- 温泉が憩いの場。
- 仲間がいないと来ない。
- 社会課題に興味ある若者に仕事や住む場所の提供。

《子どもの教育》
- 体験交流（都会⇔田舎）。
- 小中一貫校はどうか。
- 子どもが少ないのを逆手にとって、不登校などの子供を受け入れる場づくり。

《生活インフラ》
- 飲み水の安全。
- 買い物。
- 病院。
- 道路。

《仕事》
- 働く場。
- 農業用水の確保。
- 野生動物の被害。


Ⓒ帰還に向けた課題・帰還の条件
グループ C
藤田
真柄
木幡(敏)
原中
人が集まる環境 つくりが 必要
施設
運動 レジャー施設
宿泊施設
せんだん 温泉 の再利用
公園
線量情報
線量が一番心配
用地買収が いつ完了するのか? いつから建設するのか?
放射線の影響
廃棄の計画 状況
中間貯蔵 施設の影響が 心配
除線の状況
交流
地域コミュニティ 交流協会
ボランティアの 育成
温泉が いこいの場
ニート? 来てもらい 手伝ってもらう 生活基盤 整えて あげる
仲間が いないと来ない
社会課題に 興味ある若者
今加してくれる人に 宿、空き屋を貸す
仕事の提供
生活インフラ
飲み水の 安全
道路
買い物
病院
子どもの教育
小中一貫校 はどうか?
子供が少ないのを 逆手にとって 不登校児 の居場所を 作れる場所
体験交流 (都会 ↔ 田舎)
仕事
働く場
農業用水の 確保
野生動物 (被害)

②復興拠点外の整備

【発表の要点】

- 上羽鳥にある観音様に山登りができるように整備する。古墳等や寺社仏閣もある。
- 広域の火葬場が必要である。
- ダムを整備して、農業のための水源確保が大事である。
- 石熊地区は線量が高い場所で、個人でもどうすることもできない環境になっている。町と県と国とで協働して整備をしてほしい。
- ２０２０年のオリンピック前に海外からの観光客が立ち寄ってもらえるようにしてほしい。
- 双葉町にはきれいな海やキャンプ場がある。公園になる計画だが、双葉町＝きれいな海岸というのを残してほしい。
- かたくりの群生地、石熊地区、石熊砂防ダム、エビネという花が自生している場所が残したい風景だ。

【模造紙】

《残したいもの、思い出など》

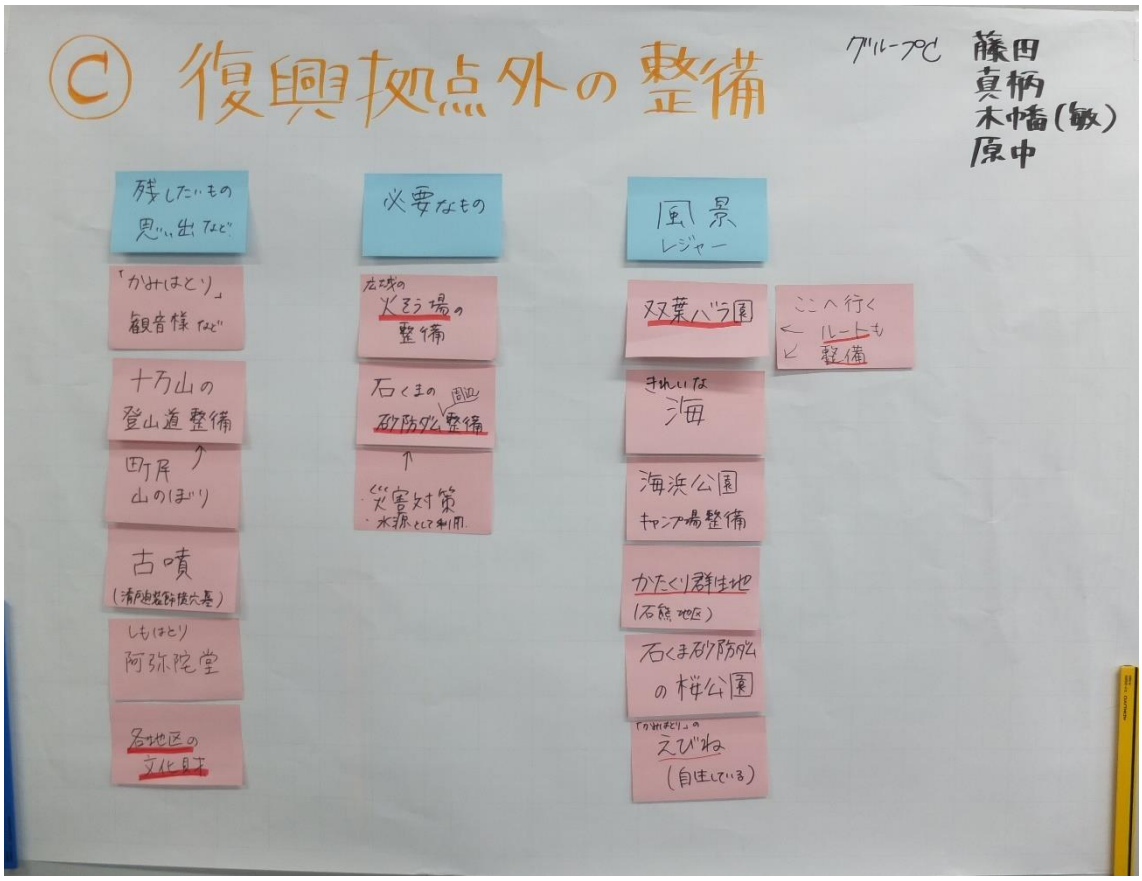
- 「上羽鳥」観音様など。
- 町民で山登りをした十万山の登山道整備。
- 古墳（清戸迫装飾横穴墓）。
- 下羽鳥阿弥陀堂。
- 各地区の文化財。

《必要なもの》

- 広域の火葬場の整備。
- 石熊の砂防ダム周辺整備。災害対策、水源として利用。

《風景レジャー》

- 双葉バラ園及びルートも整備。
- きれいな海。及びルートも整備。
- 海浜公園（キャンプ場整備）。
- かたくり群生地（石熊地区）。
- 石熊砂防ダムの桜公園。
- 上羽鳥のエビネ（自生している）。


Ⓒ 復興拠点外の整備
グループC
藤田
真柄
木幡(敏)
原中
残したいもの
思い出など
「かみはとり」
観音様など
十万山の
登山道整備
町尾
山のぼり
古墳
(清戸迫横穴墓)
しもはとり
阿弥陀堂
各地区の
文化財
必要なもの
広域の
火葬場の
整備
石くまの
砂防ダム
周辺
整備
災害対策
水源として利用
風景
レジャー
双葉バラ園
ここへ行く
ルートも
整備
きれいな
海
海浜公園
キャンプ場整備
かたくり群生地
(石熊地区)
石くま砂防ダム
の桜公園
「かみはとり」の
えびね
(自生している)

③自由なテーマ

【発表の要点】

- 夢ではなく現実にしてほしい。新たなまちづくりとしては、元に戻るのではなく新しいまちづくりをする必要がある。帰ってきたくなる町を作れば、孫たちも帰ってくる。
- 「山・海・川」双葉の自然を残していきたい。
- 震災前の先祖から続く農業を再開したい。孫たちにもしっかり受け継がせたい。
- 有機栽培に生きがいを感じていた。
- 風評被害については、現地の状況を正しく伝えるためのメディア対策が必要。
- 道の駅の活用が大切である。
- 宿泊施設については、「せんだん湯」を利用できるようにしてほしい。
- 人が戻らないと商売が難しい。今までよりも住みよい町になってほしい。

【模造紙】

《新たなまちづくり》

- 元に戻るのではなく、新たなまちづくり。
- 復興は新生。
- 帰ってきたくなるようなまちづくり。
- 新しく住む人も来たくなるまち。

《双葉の自然》

- 山菜などが採れる自然の豊かな山里があればよい。
- 川魚が採れるような川。
- 海釣りのできる海。

《仕事生きがい》

- 震災前の農業をやりたい。
- もう一度牛を飼えるようにしてほしい。
- 有機栽培に生きがい感じていた。
- 農業復興。
- 田園風景。

《風評被害》

- 現地の状況を正しく伝えるメディア対策。

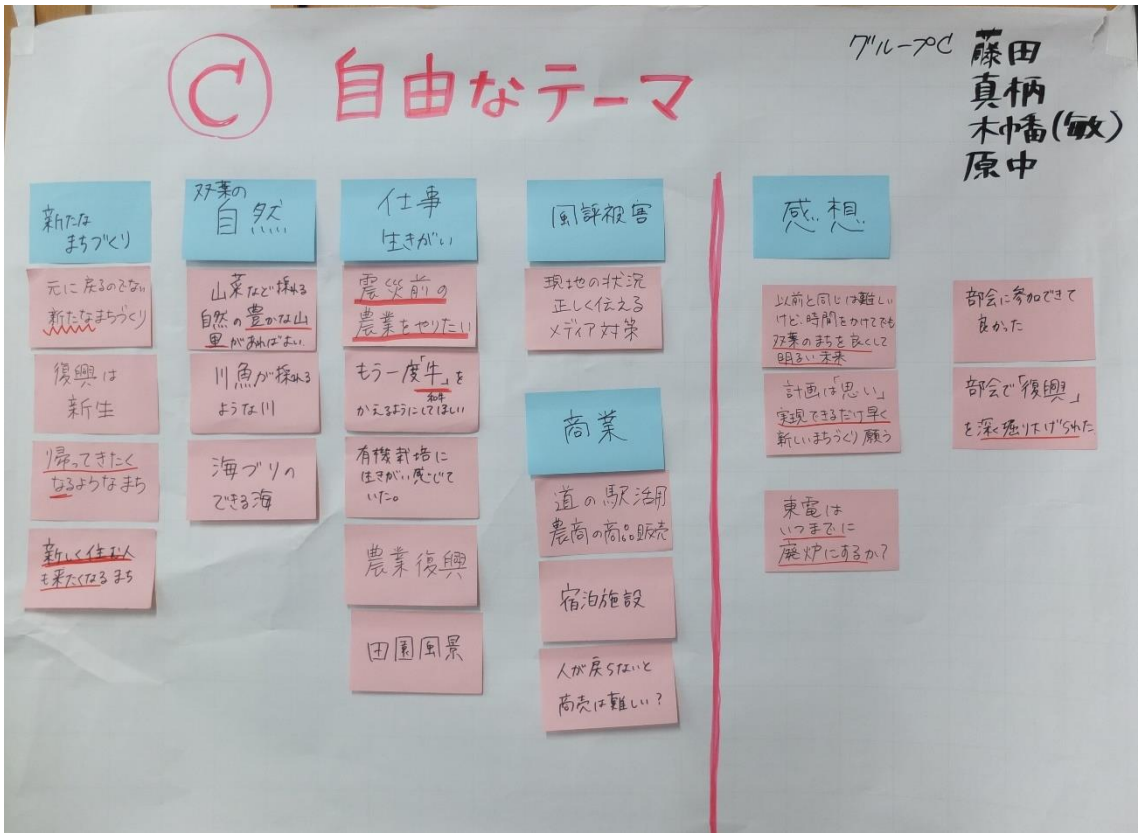
《商業》

- 道の駅活用。
- 農商の商品販売。
- 宿泊施設。
- 人が戻らないと商売は難しい。

④感想

【発表の要点】
- 以前と同じ町の姿にすることは難しいが、明るい未来のある町にする。
- 計画は「思い」。少しでも早く実現できるように願う。
- 東京電力はいつまでに廃炉にするのか。
- 部会に参加できてよかった。
- 復興というテーマを深く議論できた。

【模造紙】
- 以前と同じは難しいけれど、時間をかけてでも双葉のまちをよくして、明るい未来にしたい。
- 計画は「思い」。できるだけ早く実現。新しいまちづくりを願う。
- 東京電力はいつまでに廃炉にするのか。
- 部会に参加できてよかった。
- 部会で復興を深く掘り下げられた。



■　講評

１．福島大学　間野特任教授

- 意見が直接聞けてよかった。この意見は第二次復興計画に反映させていくことになる。
- 帰還困難区域に関する取組の開始時期は、平成２９年度からになる予定である。
- そのため、早い時期に復興拠点の計画を決定する必要がある。復興計画と復興拠点を同時並行で一体的に行うことが必要だ。復興拠点としては、昨年度議論した復興産業拠点だけではなく、駅西・駅東も含めた区域が拠点となり、インフラ等が整備された後、避難指示が解除される。５年と言うと長く感じる人もいるかもしれないが、実は目の前に迫ってきている。
- 復興拠点候補地となる区域には、町民の相当数の方が住んでいた。復興拠点となった地区の避難指示が解除されれば、いよいよ帰還するかどうかを決めていかなくてはならない。
- そのため避難先での避難生活のサポートだけではなく、帰還するかどうかを判断するためのサポートや仕組が必要である。
- １１月に町民委員会があるが、事務局はこのような考え方も踏まえた上で二次計画の案を作成してほしい。

２．福島復興局　池田参事官補佐

- 貴重なご意見を聞かせていただくことができた。
- 双葉町の周辺町村も同じ課題を抱えている。その情報や経験を活かして、引き続き、国・県・町と力を合わせて復興を進めていきたい。

３．福島県　避難地域復興課　後藤副課長

- 町民皆様の町に対する深い愛情を感じた。
- 帰還に向けた足がかりとして、町内で復興拠点の整備を進めるが、現時点での状況では、「帰る」と思える状況ではまだない。これからも国・県・町で協力して町民の皆様の希望をかなえるような復興拠点を創っていきたい。そのようにして、町民の方に「帰れるかな」「まだ帰れないかな」と検討していただけるような状況を早く作っていけるよう一生懸命取り組みたい。

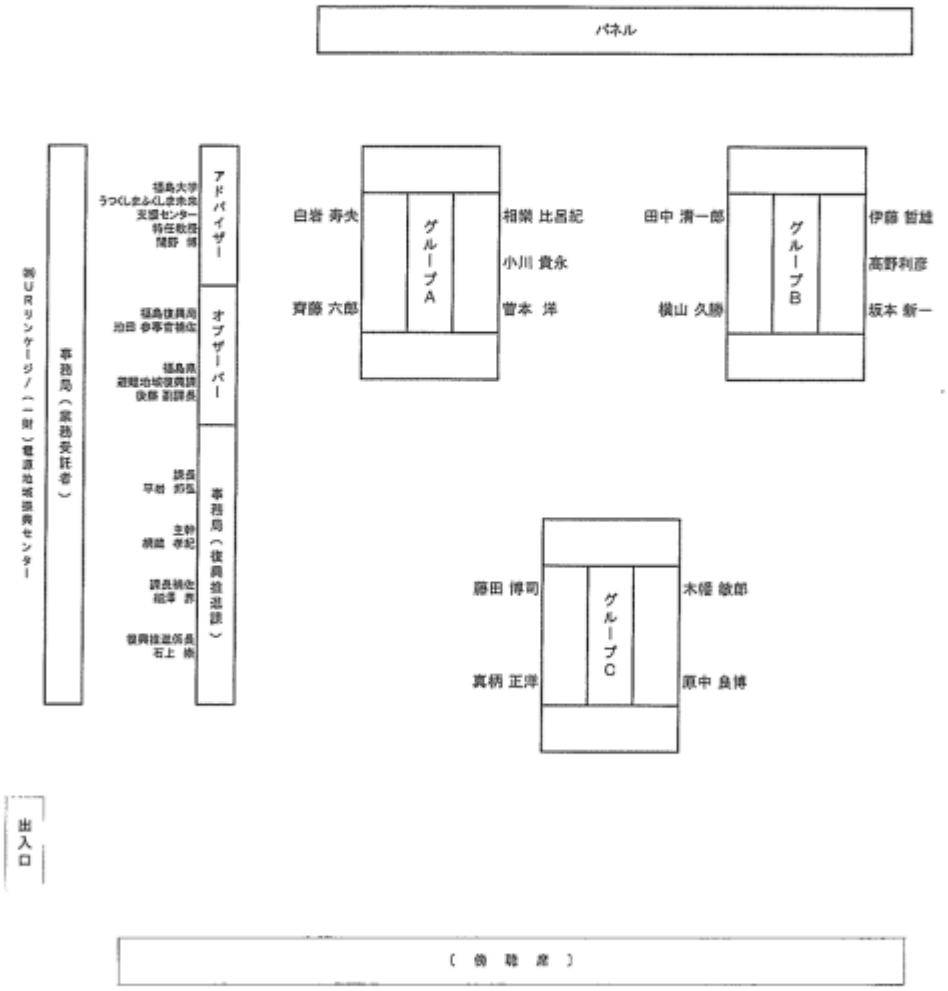
４．双葉町　金田副町長

- 帰還に向けて、様々な課題を整理してもらった。これらを解消して復興を実現していくことが重要である。
- 意見を踏まえて、第二次の骨子案を作成し、１１月には議論できるように作業を進めたい。
- 帰還困難区域の方針に基づき、復興拠点の認定に向けた協議などを国と本格的に行っていく。帰還困難区域も含め、一日も早い双葉町の復興を目指

したい。

５．伊藤哲雄部会長

- 全３回の部会の成果を二次計画に反映してほしい。
- そして、復興の実現に向けて前に進めるようにしてほしい。

双葉町復興町民委員会 第3回町の復興部会　配席図

（敬称略）